

# (仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

## 第3回ワークショップ会議録

日時：平成23年10月29日(土) 10:00~12:00

場所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：公募市民：13名 関係団体：11名 計：24名 傍聴者：29名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

(東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

(東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤潮研究室)

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、根本事務職員

(財)漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 笠原知子助教

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生4名

### プログラム

#### 第1部

- ①第2回ワークショップで出された意見
- ②これまでに確認された事項について
- ③本日の討議(グループワーク)について

#### 第2部グループワーク

- ④グループワーク
- ⑤グループ発表
- ⑥意見交換

終わりに

- ⑦次回のご案内

### 配布資料

#### 第3回ワークショップ 次 第

資料-1：第2回ワークショップで出された主な意見

資料-2：第2回ワークショップまでの確認事項

参考資料-1：課題抽出・整理のための検討素材

参考資料-2：海図/地形図/空中写真/神奈川県漁港

参考資料-3：前提条件の整理・確認 一覧表 ~Ver.2~

参考資料-4：平成21年10月 台風18号による鎌倉地区漁業被害状況

補足資料-1：第2回WSでのアンケート調査結果

## 第1部

① 第2回ワークショップで出された意見

② これまでに確認された事項について

事務局：第1部は手短に進めます。まず第2回ワークショップ（以下「WS」という。）で出された意見として事務局から報告します。

事務局：産業振興課の加藤です。第2回のWSで出された意見について、概要を復習も兼ねて簡単に報告します。資料-1を見てください。第2回のWSではWSの主旨、進め方、前提条件の整理・確認ということで、ファシリテータ（以下「FT」という。）の齋藤先生と市から説明・提案をしました。その後の質疑の中でいただいた主な意見を資料にまとめたので見ていただきたいと思います。

まず前提条件、漁港の建設を前提としているのか、との意見がありました。3月の東日本大震災の後、災害対策に対する国民意識が変化しており、その中でそのまま漁港の議論を進めていいのか、という意見です。それから議論の前提として解決したいこと、実現したいことは何か、それをきちんと示してほしい、という意見です。実際に漁業者が日頃何に困っていて、こういった課題があるからこうしてほしいということがわかるようなデータを提出してほしい、具体的には災害の被害状況とか、漁業の具体的な港勢的な数字、近隣他地区との比較等できるような資料がほしい、ということで本日そういった資料も出しています。それからこのWSの意見のまとめ方はどうするのか、アンケートにも、参加者がやるのか、市がやれば良いじゃないか、との意見もありました。それから国民意識。震災後このような状況の中で事業を進めて良いのか、という意見です。それから情報不足。数字で具体的なデータを示してもらいたい、漁港が必要な理由を知りたいということですが、数値的なデータは今回、平成21年10月の台風18号、近年で最大の被害と思われる際の鎌倉の被害状況をまとめたもの、それから過去の鎌倉市の漁港港勢、漁業者数、漁獲高、船隻数、途中から隣の小坪地区の状況も併せた資料を用意しました。鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）と本WSとの関連付け。これは資料-2でお話しします。それから、現実の問題を一つ一つ理解してから話し合いたい、漁港における様々な事柄、具体的なことも勉強してから多面的に考えたい、といった意見もありました。これは先ほどの「情報不足」と関連しますが、具体的な数値、鎌倉の漁業の現状を理解した上でないと正しい議論はできない、というのと同意見だと思います。今回、各テーブルは前回と同じメンバー配置とさせていただいており、漁業者が必ず一人入っているので、是非、情報交換しながら話し合いをしていただきたいと思います。それから具体的な内容は後にしてフレームを逆に市から示してはどうか、という意見がありました。これはWSのまとめの目次案のようなものを作ってからやるべきではないかと、これはアンケートからですが、市の方から目次案を出してほしいという意見もありました。

これはまとめ方として皆さんで議論していただきたいと思います。それから漁港を主語としないでアイテムの一つとして捉えるべきである、という意見がありました。これは震災時に津波が防潮堤等を越える被害から、見直し等の意識変化を踏まえた新しい漁港というか、海岸のあり方について考えるべきではないかという意見です。漁業関係者以外の立場の人の考え方や意見も含めてほしい、という意見です。これは、WSで出された意見はすべて記録するということは申し上げているところです。当然、参加者皆さんの意見を参考とさせていただきます。

アンケートの主要意見ですが、前回時間のない中で、予想以上の方から提出していただきました。本当にありがとうございます。本日、補足資料としてアンケート結果を配布していますが、いくつか紹介します。

「漁業者の話、意見が聞けて良かった」「漁港建設以外のアイデア（漁業を守る）も募集して比較すれば良い」「もっとグループワーク（以下「GW」という。）に時間を使ってほしい」「もっと参加者同士の意見が聴きたい」「パブコメの前に「市政便り」の号外を出して市内全世帯に配布する」「反対する人の具体的な理由が知りたい」「港を造りたいという様々な意見が聴きたい」「せっかく漁港を造るなら「鎌倉 海の駅」みたいなものが一緒にできれば良い」「市が使うことを想定したアウトプットフレームを示しても良いのではないかなど、たくさんの意見がありました。これは資料としてそのまま作成しましたので、見ていただきたいと思います。

続いて資料-2、前回までの2回分です。確認された事項についてです。

まずWSの主旨です。何かを設定するものではなく、様々な立場の人の意見を出して話し合い、考え、お互いを知る機会を得る場です。

WSの位置づけ。漁対協とは別の協議の場であり、今後行う予定のパブリックコメント等と併せて、並列な位置づけです。

その結果、意見の取り扱い。一つ一つの出された意見はすべて重要かつ貴重なものとして、市は受け止めます。当然まとめられた成果については、市長に責任をもって報告させていただきます。

事業の決定のプロセス。WS、漁対漁、その他の市民の方々の意見、を踏まえて市が判断をし、最終的に決定をして計画を立案します。市からは以上です。

事務局：第1部の①、②、資料-1、資料-2に基づいて事務局から報告させていただきました。次に③以下は本日のGWについての討議に入ります。資料-2の確認事項を踏まえて、FTをお願いしている東京工業大学の齋藤先生、FT補佐（以下「FT補」という。）の橋本さん、それに各テーブルに齋藤研究室の大学院生が各一名ずつ付いているので、グループ討議の補佐ということで進めていきます。それではここから齋藤先生に進行していただきます。

参加者：ちょっと待ってください。確認事項について、事務局側が確認した、とペーパーが配布されている。私は確認していない、まだクレームがある。確認した

ということを今日確認できたのか。事務局側が今までの議論を整理して「私たちはこのように確認した」というのがこのペーパーだ。だから発言したい。事業のプロセスについて、市の最終立案書は事務局サイドで理解したことを判断して書くわけで、私の提案は最終的に作ったペーパーをもう一回この会議にかけた上で、市民総意の基で計画ができたという形をとってもらいたい。

事務局：そのとおり事務局は考えています。このWSでの議論の取りまとめはWSの皆さんの理解を得たものと位置づけています。

参加者：私が言ったのはそういうことではない。最終的にこのWSが終わった後で作った一冊は、もう一回この皆さんにかけのが形としてはベターではないでしょうか。

事務局：そのとおりだと思います。例えば皆さんが出された意見で市が決定する、その中で出された意見が全て採用されるわけではないこともあると思います。それについてはそれらも含めて解決して、なぜそれができなかったのか、なるべくここに付記しながら返していきたい、ということを以前申し上げたつもりです。こういった形でできるかはわかりませんが、そういった内容で考えています。

参加者：わかりました。

参加者：この資料-2のWSでの確認事項について、議論する場があるのか。

参加者：我々が確認するのだ。事務局が確認するのとは違う。

参加者：WSの趣旨というが、具体的に何も書かれていない。一般的なことで。このWSは漁港建設に関するWSですよ。目的が一切書いてない。こんなことは連ねても意味が無いのではないかと。目的は、なぜWSをしているのか、という主語がない。

事務局：前回の第2回WSの際に、WSとは、WSの目的、意義を説明させていただきましたが、ここに全部冗長に書くわけにはいかなかったので、エッセンスだけ出させていただきました。

参加者：それを書いてもらわないと意味が無い。

事務局：前回お配りした資料、そこで確認したことが前回確認したことということで書きました。

参加者：これはあなたが作ったのか。

事務局：事務局皆で考えて作ったものです。

参加者：主旨の主語がない。

事務局：前回の資料に書かれています。

参加者：書き直してほしい。主語のない文章では意味が無い。

事務局：主語は「WS」です。

参加者：WSとはって、ただ単に我々は集まっているわけではない。言葉が足りない。

事務局：特に今書き換えるわけにはいかないの、そのあたりに気を付けてもう一度書き直したいと思います。

参加者：もう一つあります。WSの位置付けだが、漁対協と並列だという説明だが、だったらなぜ市長なり、部長なりが出てこないのか。漁対協には出ていますよね。

事務局：漁対協では、市長は冒頭で挨拶に来ました。部長は各回、出席できる限り出席しています。漁対協では市長から諮問をして答申をするという形式でしたが、このWSというのはあくまでも主体は参加者で、参加者の方が話し合いをして意見を出していただく場なので、市のスタンスとしては、必要な資料提供とか、説明とかで、議論には直接参加いたしません。以前も「市長、部長は参加しないのか」というお話があったので、参考資料-3の6ページに書かせていただきました。繰り返しになりますが、WSは市民の皆さんの協議が主体です。WSでの市の役割は協議に必要な資料提供、説明を行うことであり、そのために担当課である私ども産業振興課が出席して対応させていただく、というように書かせていただきました。

参加者：漁対協では部長は毎回出ていたのですか。

事務局：部長は毎回出ていました。

参加者：今、こちらの方の意見で書類が、出席者が、というお話だが、個人的な意見としては申し訳ないが皆さんお休みだったり時間のないところ出てきておられる方が多い。もうちょっと中身のある話をさせていただきたいと思います。表面的な問題に言及するより、漁港に対する話し合いをもうちょっと進めたほうが良いと思います。

参加者：確認だけはしたほうが良いと思って。

参加者：提出してもらえば良いのではないですか。

参加者：並列だというのに部長が出ない理由を説明していただきたい。

事務局：漁対協では部長が出席して発言もしなければいけない局面もありましたが、このWSでは、我々担当課で対応できると考えています。部長の出席が無ければ皆さんが納得できない、ということであればそうかもしれません。事務局としてはWSの主体は皆さんであって、特に部長が出席しなければ進まない、ということは無いのではないかと考えました。

参加者：では並列な位置づけとはどういうことなのか。

事務局：出された意見について、今後、市がこの問題について判断していく際に、例えば漁対協が上位でWSが下にあるということではなく、平等に扱う、という意味で「並列」と表現しています。

参加者：決定プロセスだが、市が判断、決定して計画を立案とあるが、読み方によっては建設ありきととられるが、市が建設の是非を判断、決定して、是となれば具体的な計画を立案する、そういう解釈でよろしいか。

事務局：それで結構です。

参加者：であれば修正をしていただきたい。

事務局：もう少し具体的に書く、ということですね。

参加者：「建設の是非を判断する」という一文がないと、建設ありきが前提ととれるので。

事務局：これも次回加筆させていただきます。

参加者：確認された内容について、個人的には非常に不愉快に感じた。というのはこんな確認をいただろうか、という印象です。それなのでいきなりというか、先ほど話があったが、決して文章とかにこだわったりしたくないが、WSの位置づけ、このWSの結果がどうフィードバックされるのか、その質だと思う。パブリックコメントと併せて並列な位置づけである、と書かれていますが、パブリックコメントは文章として出ます。WSがどういう形で文章になるのかというのが私たちの質問です。先ほど最後にまとめを作ってここで承認するのか、という確認があったが、その点はきちんとしていただきたい。

参加者：それを確認したいのだ。そういう手続きがほしい。そういう手続きをここに文章として載せていただきたい。

事務局：今後のまとめ方ということに関わるとは思います、何らかの文章なり何かまとめたものを。

参加者：いやそれをまとめて出すなら、勝手にあなた方の判断で出さないでできたものをちゃんと皆さんの合意で。何人中、何人が賛成でこうなりましたと。

参加者：今、あなたの言っていることは正論です。だが、鎌倉市の行政においては市民WSなる名前の形式でもって、市民の意見を聴取する、と。「聴取する」で終わっているのだと思います。だから先ほど言ったように、民主主義であればせっかくこういう場で意見を言っているのだから、そうやって議論して立案した最終案はやっぱりWS参加者にかけてもらいたい。その結果、過半数で賛成になれば、「市民の意見を聴いて、多方の賛成を得ました。だからこのまとめあげが行政部局で作った最終案です」と言って出せばそれは良いと思います。だが今まで鎌倉市はそういうことをやったことがない。以前参加した市民WSの最終結果に疑問がありました。その個人的な不満が、今回同じ轍を踏むのではないかと恐れています。

参加者：議論するのは良いが、それを勝手にまとめられるのは困ります。皆の合意でまとめたものを作りたいのは誰でも思うのでは。正論が正論で通るように。

参加者：鎌倉市の新しい市民WSが一つ確立された、というぐらいの意気込みでやったほうが良い。

事務局：私どももこういったWSの経験が少なくて申し訳ありませんが、このまとめ方、皆さんがこういう方向でまとめてほしい、という内容をまとめるのが、事務局の役目だと思っています。そういったことを、皆さんで話し合ってくださいと思います。

F T：行政の立場として、あるいはこういう会を主催する立場として、1回1回ある程度の成果が出た、ということを確認したいというところはよくわかりますが、前回までを見てもわかるように非常に混沌としている。このGWの進

め方にしても、それが現状だから立場はよくわかるが、毎回こういう成果が出たということが無理して作っていかなくても良いのではないのでしょうか。もう少し軌道に乗ってから、それができるのでは。無理して毎回確認をやってしまうと「あんな混沌とした状態で何が決まったのか」という意見が出てくるのは、無理ないと思います。

事務局：少し先走ったところもあるかもしれませんが、あくまでも案ということで確認をして、先に進んでいくということで、決定ではありません。今いただいた意見は、次回以降、考えていきたいと思います。

参加者：私はその反対の意見ですが、スタートが一番大事だと思います。どういう形でやっていくか、ということでスタートしないと議論がどこへ行くかわからない。やはりスタートの前提条件等は、はっきりと皆さんである程度意思統一してから進めないといけない。ですからこの確認事項でもはっきりと言葉として確認していくならきちんとした形でやっていただきたい、という意味で私は発言しています。

参加者：個人的な体験からすると、こういう議論の場は時間がかかるものです。たかが5、6回でこういう結論に持って行こうとするのがおかしい。今まで40年ほどかかっているわけだし。

参加者：前回の話で私が理解したのは、このWSはヒアリングというか、多様な意見を聴いてまとめる会だと思うので、別に何か決めるといった会ではないと思うのですが。決めないで色々な意見があったこと、それをわかりやすくまとめて、市長に渡せば良いんじゃないですか。こんなこと私は言っていない、後で言った、言っていないで問題があるので困るから何か決めたい、ということだろうと理解しましたが、何かを決める、そんな重要な討議の場ではないと私は理解しているのですが。

参加者：それは行政に答えていただきたい。

参加者：最後に、多様な意見があった、というのを皆で確認しないと、勝手にこんな意見でまとまりましたと書かれると、市民はこれで合意したって話になってしまうのではないかと、という心配、そこがポイントなのです。

参加者：別に市民全員が合意したというわけではないのでは。

参加者：だから「こういう多様な意見がありました」とちゃんと出していただきたい。勝手なまとめ方をしないでほしいと私は言っているのです。

参加者：では毎回、会が終わったら議事録を作ってもらってはいかがでしょうか。

参加者：全体が終わったら全体の議事録を作ってもらおう。

参加者：それはメールか何かで送って、1週間以内に各自問題があるか確認してもらえば良いのではないのでしょうか。間違ってた、ここは違う、検討すべしとか、義務化してやればよいのではないですか。後からこれは言っていないとならないうちにやれば良い。

参加者：一刻も早くGWに入りたいのもう一言言わせていただきますが、漁港建設

にかかるWSの主旨は、何かを決定するものではなく、色々な立場の人が集まって意見を出し合い、話し合い、考えをお互いが知る機会を得る場であり、市は一つ一つ貴重な意見として受け止める、ということは、全員が確認できることであるし、これに反対する人はいないと思います。ここに「何かを決定するものではない」と書いてありますが、こういうWSを開くこと自体が、漁港建設がある程度想定としてあって、そこへのレールの一つとしてこれが設定されたのではないかと疑いを持たれる方がやはり多いと思います。私は漁港建設を切に願っている立場ではありますが、まったくそのように考えてはいません。漁港建設とはいえ、なぜ漁港が必要かということさえ、全然周知されていないと考えています。漁業者の立場からいっても、そういうことを早く皆さんに知ってもらいたいからGWを切望しています。決してこれは漁港建設がまず先にあって、アリバイのためにこれを行っているわけではない、そのことがやっぱり一番疑われるのです、行政に対しては。これは今までの行政のあり方にも問題があります。そういうことではない、ということはどうやって証明していいのか私にはわかりませんが、担当課からそうではないと、説明してもらえませんか。

事務局：こちらで言わなければいけないことを全部言っていただきまして恐縮です。我々はここで物申す立場ではありませんが、まずここは決定機関ではありません。それから市としても、確かに市の実施計画事業として漁港建設をうたっていますが、これはまだ決まっているわけではありません。それをどうしていくか、ということをご皆さんから意見を幅広く聴いていくということで、何か一つの結論を出さなければいけないという審議会ではありません。このWSは皆さんからの意見を一つ一つ拾っていくものだといわれたいと思います。そういった主旨でこのWSを開催させていただいていますが、決してアリバイ作りとか、そういうことではありません。初めてこういった形でやっているのだから、経過の公表も今まであまりできていませんので、この機会に是非、市民の方にも取り組みをしていただきたいと始めた会でもありますので、本当に時間が押しているからGWに入ってもらいたいと有難いです。よろしくお願いします。

参加者：それこそだわっているが、市長なり部長が来て、トップが来てそういうことはありません、と皆さんの前で知らしめるべきです。特に現市長は、本来漁港建設は進めないという公約で当選しているのだから、このWSの主旨はどういうことであるか、はっきりと説明する責任があるはずで。行政のトップがはっきりと説明されれば、担当課に言われるよりも皆さん安心すると思います。そこからスタートしないといけません。

事務局：私には権限が無いので申し訳ありませんが、検討していただきたいと伝えます。

事務局：では時間が迫っているので第1部の③、本日のGWについて、齋藤先生に進行を務めていただきます。



③ 本日の討議（グループワーク）について

F T : それでは本日の進め方について少し議論したいと思います。暫定的には今回含めて残り4回です。4回では少ないという場合でも、予算的にはあと4回しか無い。延長するかは次の問題として考えてください。第2回のWSを振り返ると、皆さんに第2回の問題を色々書いていただきました。整理すると六つになります。全部やるわけにはいかないの、このWSの前提部分、先程も話題になりましたが、WSの前提をはっきりしていただきたい。何度も意見が出されていますが、市としての説明はしています。もう一つはWSの結論をどうまとめるかというイメージを出してもらいたい。私としてはWSが自発的にこういうまとめ方をしよう、と言ってほしい訳です。このような提案をしたら、意見が分かれてきました。つまり、私は可能な限りWSでの具体的な情報発信をイメージしていましたが、ちょっとそういう場合じゃない。つまり、WSが何をどうまとめるかはそっちが決めてくれと。それに従ってどんどんやると。それから物事を判断するために基本的な情報が出揃ってないと議論ができない。もっと参考になる情報を出してくれ。漁港建設に関する具体的な議論を早くやろうと。いつまでも全体的な議論をやっても全然つまらない。全体に時間を使いすぎてGWの時間がいつも不十分になっているから、ちゃんと時間を取れるようにしてくれと。そこでもう「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」、「(5) 非漁業関係者からみた漁港建設への意見」の話に今日はもう入りたいと思います。どのような報告、まとめをするかについては、やりながら考えていくことにしましょう。最初に決まらなないと気持ち悪くてできないという人もいるでしょうが、それでは全然具体的な議論ができないので、今日は取り敢えず「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」、できれば「(5) 非漁業関係者からみた漁港建設への意見」までやってみたい。先ほどWSは何も決める場ではないと言いましたが、漁港建設の是非を決着させる会合ではない、については前回確認した事項で、皆さんにもお伝えしました。じゃ、どうまとめたらいいかについて、意見を伺ったが、皆さんの意見がまとまらなかった。そこで、あくまでも暫定的ですが、漁港建設を今後、市がどういう判断をするかわかりませんが、造るにしろ造らないにしろ、一方が決定されれば誰かが迷惑を被ったり、不満を耐えなければいけないわけで、それをやりっ放しにならないようにする。つまりある決定をされたその反対の人達には、こういう付帯条件をつけて、我々の考えを共有していこう。そういう風に付帯条件を付ける方向でまとめていったらどうか。建設がいいか悪いかを決めるのではないということだけ念頭に置いて、議論していただきたい。皆さんのテーブルにいる様々な立場の人の意見をよく引き出して聞いていただきたいし、周りの人がこうだと言うことに対して、それは駄目だと決して言わないということが前提です。「なるほどそうか、ではこうはどうだろう」と逆提案しながら、議論

を活性化していただきたい。情報が少ないという方に対しては、グループのメンバーによる情報交換も重要な情報源なので、これは尊重していただきたい。それから皆さんのテーブルに行政からの提出資料があります。これじゃ足りない、わかりづらいという場合は手を上げて事務局を呼んでください。具体的に事務局に尋ねていただきたい。それよりも議論をどんどん進めたい、というならどんどん進めていただきたいし、前提条件をきちんとしたければ、それについてどういう情報がほしいのか話し合っただけでも結構なので、とにかくGWをしていただきたいと思います。よろしくお願いします。この後、事務局から注意があるのでよろしくお願いします。

## 第2部

### ④ グループワーク

－ F T 補からGWについて時間配分等注意事項の説明－

「漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」「非漁業関係者からみた漁港建設への意見」などをテーマに、参加者4グループ、傍聴者2グループでGWを行いました。

### ⑤ グループ発表

### ⑥ 意見交換

#### 【橙グループ】

今回は「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」、「(5) 非漁業関係者からみた漁港建設への意見」のテーマに沿っているかどうかわかりませんが、漁業者が漁港建設についてどういう考えを持っていて、それに対してどう考えていくかを話し合いました。

まず、「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」について漁協の方からなぜ漁港が必要なのか、の説明。それから第1次産業としての鎌倉市の財産を守る。鎌倉で獲れた魚がどれだけ鎌倉の市民の口に入っているのだろうか。実はほぼ100%口に入らない現実がある中で、地産地消を含めて、一言で言うとフランスのマルセイユのような街、鎌倉市が一体化した漁業のあり方が根底にあって、漁港を、という意見がまず出ました。それに対して、別の意見ではそれ自体を知っている市民がまず少ないのではないか。要するに市民との交流の拡大が必要なのではないか。今「浜売り」が朝の4時半から7時くらいに行われていますが、一般市民が買えるかといったら中々難しい。しかし美味しい魚はいっぱいある。台風の時、道路に止めたら通報が来るとか、実際に起きている問題を多くの市民が知るべきではないのか。造るコストだけでなくその後のランニングコストがどのくらいかかるのか。2億円ぐらいかかると言われているが、その2億円の財源はどうするのか。

参加者：2億円は年間ですか。

橙 G：年間です。これは試算で本当にこのくらいかかるかどうかはわかりません。

参加者：2億円の内訳は。

事務局：2億円というのはどこから出た数字ですか。

橙 G：未確認の情報ですがそのくらいかかると聞きました。

事務局：10年、20年と経てば大規模な修繕でそのくらいかかるかもしれませんが、通常ならそんなにはかかりません。せいぜい年間100万円くらいです。もっと少ないかも知れません。ただ造る場所によっては浚渫が必要かもしれませんが、それも何年かに一回でその際は1~2千万円かかるかもしれませんが、2億円までは通常かかりません。

### 【青グループ】

漁業の直接的な問題点として上がったのは、地産地消の充実が必要であること。やはり漁業関係者の視点から言うと、台風等の災害によって浜小屋が流されたことがあるから漁港を切望しています。10年後、20年後の推計をした上で、将来のイメージがどのようなのかを描いて漁港の必要性の是非を問うていく必要があります。10年後、20年後の推計というのは、港の規模がどのくらいが良いかという議論はしましたが、10年後、20年後に港がいるかという議論ではありません。規模ではなく、20年後の状況についてです。

事務局：その点についてはこれからも継続して詰めていきます。

### 【赤グループ】

最初に漁業関係者から漁業の現状を話していただいて、現状として浜から船を出すのは、非常に大変であること。危険な面もあるし労力もかかります。鎌倉の漁業は漁港が無いので船が色々なところに散らばっています。買い付け業者は一箇所ではなくて色々周らなくてはいけないから流通面で他の漁場に比べると不利になります。漁港を造るという現状の計画、青写真、それを見ると材木座の漁師は漁港を造っても残るといいますが、なぜかというとな材木座の漁師はワカメが主であるのと高齢であるので、後10年ぐらいしか漁業を続けないのではないかと、というのが現状で、それに対する問題点が指摘されました。一つ目は鎌倉市の税金の使い道として、他に大事なやることではないか。税金の使い方の優先順位を考えてもらいたい。話をするにしても費用対効果、20億円を使ってどういう効果がでるのか、それを示してもらいたい。税金の使い道としてですが、坂ノ下のあたりは低い土地なので津波対策とか防災面に20億円を使ってもらいたい。鎌倉に漁港を造るのではなく、腰越や小坪と一緒にしてしまえば良いのではないかと。消費者としては同じ海で獲れているのだから、腰越や小坪に行けば良いのではないかと。逆に漁港があった方がいいという意見の理由としては、地域産業の育

成、地産地消を推進する、例えば将来漁師になりたいという子供もいます。こういったものを育てていくには良いのではないかと。現状として鎌倉とか茅ヶ崎とか浜がどんどん狭くなっている、いずれにせよ浜から船を出す形態は将来難しいのではないかと。後、漁業、地域産業を育成することによって、例えばシラスなど他県のナンバーの車も買いに来ていることから観光につながるのではないかと。観光は鎌倉にとって一番重要な産業です。観光産業を助けるという意味でも、漁港を造って漁業を推進するのは良いのではないかと。ただそれも、じゃどのくらい効果があるのか、費用対効果を知りたいという意見もありました。個人的な意見ですが、20億円は大体市民一人当たりだと実際いくらなのか。私は知りたいと思いました。あと費用対効果が出たので、そういう数値なら定性的なデータがあって良いのではないかともしました。

#### 【緑グループ】

漁業者から見た現状の問題として、港が無いので一旦船を揚げて作業してまた戻って、とやっていると一日の稼働率が非常に悪い。天候が少しでも悪くなると船が出せなくなる。港があれば稼働率がかなり上がるという状況にある。台風の際に砂を入れ直さなければならぬ。これにもかなりのコストがかかるのと、砂を入れるとある所にどんどん砂が溜まっていく。そうすると船を出すのも難しくなってくるし、マリンスポーツにも影響がある。それに対して、これまでもずっと売り上げと建設コストが言われていますが、現状の問題だけでなく漁業者のビジョン、将来どうなっていくのかを示していただきたい。そんな中で、ただ漁港を造るのではなく、もっと皆が使える港が良いのではないかと。鎌倉らしい漁港、他とは違うものを。漁業者からは美味しい魚が沢山獲れるので、これを皆さんに食べてもらえる場所をもっと提供したいという話もありました。それに対して反対の立場の意見としては、何らかの施設が必要、現状が大変であるのはもちろんわかるが、そのために海を埋めるというのはやはりやめてほしい。では海を埋めずに何らかの施設ってどうするのか、そこから漁港の代替案はないだろうか。例えば水路、掘割のようなもの、ここに図を書いていただきましたが、直売所と荷揚げスペースができる。今ある駐車場に船を揚げられるようにする。漁港にこだわらずに何かできないか。それに対してそれでは対症療法的だ、という意見も出ました。

参加者：ちょっとでも荒れると漁に出ないのですか。こちらの漁業者によると、台風が来るのがわかっているけど、ぎりぎりまで漁をしているから結局腰越などに逃げることができなくなる。ぎりぎりまで漁をしたいから、という話だったので。

緑 G：漁師によるだろうし、漁に出ない場合は売上が落ちる問題があります。

### 【傍聴者グループ1】

現状の問題として、まず安全性の問題があります。漁業者が船を出せない場合もあります。魚が獲れるのに波があると漁に出られない、操業上の制限があります。作業環境を向上してほしい、作業がきつい状況もあります。鎌倉の漁業者は新規が多い、漁業をやりたい人も多いが環境が悪くてできないという現状もあります。港ができると、より漁業が活性化するのではないかと。代替地区として腰越、和賀江嶋の方は使えないのか。他の組合と合併して、腰越漁港を使用すると魚の輸送の点とか不都合がある。坂ノ下じゃなくてもいいのでは。坂ノ下だと潮はどうなのかとか、マンションからの眺望が阻害されるのではないかと、という点で、港がある風景が本当に悪い影響があるのか。漁港建設が環境に与えるダメージだったり、漁港ができることで船の出入りが増えたり、大型船の出港によりマリンスポーツをする人に危険があるのでは。という意見がありました。それは漁港の造り方によって他の方法も考えられるのではないかと。漁業関係者に利益をもたらすだけでなく、市民にも付加価値のある漁港、海の駅とか他の方法も検討する必要があるのではないかと、という意見でした。

### 【傍聴者グループ2】

我々は白黒はっきりつけよう、賛成なのか反対なのかで意見を出していただきました。ほとんどが賛成、後はわからない、どちらでもないという意見でした。反対意見は漁港が反対というわけではなくて、場所が良くないのではないかと。その場所に関して漁業関係者に聞くと、やはり和賀江嶋周辺がベスト。何度も言っている。じゃなぜそこが駄目なのかというと、文化遺産だからである、省庁の関係で造れない。坂ノ下はなぜ駄目なのか、あそこは波が大きい。すると沖に消波ブロックが必要になる。消波ブロックを入れればいいのか、入れれば入れるほど潮が変わる。どんどん淀んでゴミも集まる。そうなるとお互いよくない。ベストの所があるのに何故造れないのかと。そこでちょっと紛糾しました。漁師の方々には魚を提供してもらって感謝しているので、漁港建設に関して一切反対はありません。場所に対してもうちょっと国民的なプッシュができないか。文化庁がなぜ動かないのか。文化遺産だから手が入れない。今現在、国民の意識は防災に対して変わってきています。坂ノ下は防波堤がありますが、材木座は防波堤がないので、このまま潮が上がってくると防災上で危ない状況になってくる、漁港だけにお金を使えるのか、それで国民を納得させられるのか、議会を納得させられるのか。トータルで考えると、防災を含めた形で漁港を造るのがベストです。それを踏まえた形で考えられれば、漁師も市民も別にぶつかることは一切ない。そういう形で議論を進めました。

F T : 「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」、「(5) 非漁業関係者からみた漁港建設への意見」二つの課題が出ていますが、拝見していると (4) を十分に議論し尽くしていないようなので、次回は今日のまとめを紹介して、

その後に (4) の続きをやるということでどうでしょうか。出尽くしてない (5) を重点的に議論するということがよろしいでしょうか。ではそのように準備をしますので、また次回是非ご参加いただきたい。

終わりに

事務局から次回開催予定、閉会挨拶を行いました。